

政策課題ワーキンググループの報告書まとまる

JAMシニアクラブは、日本の高齢化、少子社会、人口減少の中で、医療、介護、子ども子育てなどこれからの社会保障制度をどう



すすめていくか。幹事会を中心に議論していくための課題整理と資料作成を目的に「政策課題ワーキンググループ」を設置し、本年2月より5回の委員会を開催、11月25日の第5回委員会で作業のまとめを行いました。

A・少子化問題、B・高齢者医療、C・介護保険と介護労働者の労働条件、D・高齢者の生活実態の4つの課題別グループによって資料作成と課題整理を行い、ワーキンググループとして総合的な検討を行い報告書としてまとめました。この内容は12月10日開催の第1回幹事会に報告されました。今後、幹事会を中心に報告書に基づいて継続

的な議論と検討をすすめていきます。尚、報告書は最終的な精査を行ったあと1月下旬に製本化し、地方シニア、関係団体に配布する予定です。

岐阜 第24回定期総会開催

井亦廣幸 事務局長

JAM岐阜シニアクラブは11月2日、ワークプラザ岐阜5F大ホールで代議員26名、役員11名、来賓6名の方に参加を頂き第24回総会を開催しました。

原田副委員長の開会挨拶後、議長に安田孝司氏を選出し、長澤会長の挨拶後、来賓の木村JAMシニア副会長、大宮JAM東海岐阜県連会長、吉田JAM愛知シニア会長、野村岐阜県議の4名の方に挨拶を頂き、



2024年度の活動報告、決算報告、会計監査報告と2025年度の運動方針(案)、予算(案)、政策実現取組み、会員登録人員及び会費納入など審議を行いました。提案された2025年度具体的活動

1. 岐阜シニアクラブの仲間を増やすために現役の皆さんの力を頂きながら進めたいです。
2. エネルギーをはじめとする私達に影響する諸物価の値上がりなど無関心ではいられません。JAMシニアクラブ本部からの要請行動などあれば対応して行きます。
3. 政策・制度要求の取組みでは、年金・医療・介護等、社会保障制度の課題について、JAMシニア本部の取組みについて研修会などを開催し、理解を深めながら進めて行きます。
4. 25年7月に実施の参議院選挙では、JAM組織内候補者「郡山りょう」必勝のための活動を進めて行きます。
5. 仲間の皆さんに少しでも活動を知って頂くために、機関誌の発行をして情報交換をして行きます。

2024年度の活動報告、決算報告、会計監査報告と2025年度の運動方針(案)、予算(案)、政策実現取組み、会員登録人員及び会費納入など審議を行いました。提案された2025年度具体的活動

～裏面へ続く～

主張



今、最も注目されています兵庫県のJAMシニアクラブです。知事が悪いのか県議会議員の陰謀なのかは分かりませんが、SNSで流されているような「知事の厳しい予算で業者が潤わなくなったので事件を捏造して辞職に追い詰めた」とか「稲村は左翼なんだ」と言うことが真実のように流され、さらに、日常会話でも事実のように語られてきたことは、全くのフェイクニュースと言えます。

しかし、私たち労働組合やOBも大いに反省をしなければならぬ、良い教訓になった選挙戦ではないでしょうか。SNSの効果だけではなく推薦をした候補者を組合員やOBにどこまで理解をさせ真剣に取り組むをしたのでしょうか。幹部役員が選挙事務所に顔を出してそ

れで終わり、という選挙になっていたのではないのでしょうか。これは知事選だけではなく、衆議院選挙から市町議会選挙にまで全てに言えることで、組織内候補の当該労働組合候補者に近い労働のみが真剣に闘っているだけになっているように思われます。

「郡山りょう」の参議院選に向けて

兵庫シニア会長 箕浦 元幸

この様な実態から脱却しなければ来年の七月に行われる参議院選挙において、「郡山りょう」候補は、JAMから立候補した過去2名の候補者のような結果になってしまう可能性がゼロとは言えません。私たち中小で働く者が報われるためにも、昔のような手作りで毎日発行していた「組合ニュース」のように行かまませんが、それに近づける努力をしなければならぬと思

います。それともう一つは、政府は再三再四安易に賃金水準の引き上げを口にしますが、連合は「これは労使の決めることであり、政府は大企業に子会社・孫会社・協働会社に利益の還元を指導すべきだ」と毅然たる態度で主張すべきです。そうでないと各労働執行委員の方々が努力して勝ち取った賃金水準の引き上げも、組合員の人達には政府が引き出してくれた、と執行委員のご努力を軽く見る傾向となります。中小の労働者は本当に苦勞し必死に組合員の生活を守る為に頑張っているのです。執行部の皆さんが頑張っていることを評価し、組合員が役員を信頼し「組合に入っていてよかった」と言っていただけ評価を引き出せるようにすることが組合の仕事です。そのことで、組合の価値が向上し組織拡大につながるようにしていただきたいと思



富山 JAM富山シニアクラブは10月26日、「自遊館」で第25回定期総会を開催し37名が参加しました。

尾島宗一事務局長が2025年度活動方針を提案。2024年JAM富山シニアクラブの会員数が減少し650名になり、立て直していくことが課題である。今後、60歳以降の継続雇用に対応し、現役組合と連携しながらシニア組織強化に取り組む必要がある。各シニア組織が魅力ある運動を展開し、会員の維持・拡大に向けてお互いに知恵と工夫

富山 第25回定期総会開催

6. 年間に次のような活動を行い交流と情報交換を深めて行きます。

- ① 政策実現研修会&研修会
- ② グランドゴルフ大会
- ③ ボウリング大会
- ④ その他、幹事会で確認された行事。この活動方針と活動の裏付けとなる2025年度予算を満場一致で可決承認されました。

へ表面より続く

JAM神奈川シニアは10月18日 新杉田の神奈川県労働文化センターで第24回定期総会を来賓、シニア役員、代議員計50名の参加を得て開催しました。

コロナで、活動を自粛してきましたが、昨年の4月より、会員間の親睦行事の活動を中心に活動を再開して来ました。

総会は飯田会長より、事務局を含む挨拶があり、来賓の大山JAMシニア会長、



神奈川 第24回定期総会開催

加藤照雄 事務局長

しながら厳しい状況を乗り越えていくことが確認されました。

最後に、鈴木光男代表幹事の発声で、2025年の参議院議員比例代表選挙において、組織内候補予定者「郡山りょう」の議席獲得に向けて、全員参加で取組むことを「団結ガンバロー」で誓い合いました。

JAM愛媛高齢者・退職者の会は11月23日、第24回定期総会を新居浜市の「レ

愛媛 第24回定期総会開催

藤井正剛 事務局長

総会後は、定例のケータリングによる懇親会を開催、久しぶりに会った仲間との談笑が続き、楽しく親睦を深めました。

神奈川シニア連合から要請された「フードバンク」活動について、地域で生活に困っている人、社会的に弱い立場にある人々に、子ども食堂や困窮世帯に無償で提供し「食のセーフティネット」を目指す」活動に対し協力することを確認しました。

総会後は、定例のケータリングによる懇親会を開催、久しぶりに会った仲間との談笑が続き、楽しく親睦を深めました。

東谷神奈川シニア連合事務局より連帯の挨拶をいただき、2024年度活動報告・決算報告、25年度活動方針・予算案・役員が決められました。また、来年の参議院議員選挙に向けて「郡山りょう」の推薦がなされました。

会員の高齢化や、現役組織の他県への移動により、3シニア組織が退会され、組織人員の確保がやっとなり状況となりました。今年度は、現役組織の3分の2が未加入の状況を改善すべく、現役役員力を借りて組織拡大活動を行う事を決めました。

JAM愛媛高齢者・退職者の会は11月23日、第24回定期総会を新居浜市の「レ

開会挨拶を前田副代表幹事、総会議長に井関退職者の会の山本氏を選出して進行。まず森永代表幹事が先陣の衆院選の話から米大統領選挙まで言及、最後に「来年の参議院選勝利に向け皆さんの一層のお力添え・ご協力をお願いする」と熱く呼び掛けました。来賓挨拶では、大山JAMシニアクラブ会長、石川愛媛県議、労金新居浜支店の加藤次長の各氏から祝辞・激励を頂きました。続いて、為清事務局長が、本総会に寄せられた各メッセージ（白石洋一衆議院議員、ながえ孝子・村田享子両参議院議員、JAMの郡山りょう氏、檜垣愛媛県議、泉愛媛地協議長、愛媛県退職者連合、四国労金及び国民COP共済）を読み上げ披露しました。



JAM京都シニアは10月24日「京都労働者総合会館」の会議室を借用し、秋の会員交流行事第21回となる「囲碁・将棋大会」を開催しました。

囲碁は5名、将棋は8名の参加、今年は現役組合員の愛好者との対抗戦の試行的な位置づけで、囲碁・将棋各1名の参加をいただいた

活動方針の最重点課題であるシニア会員の拡大策では前年の方針を踏襲、①60歳以降非組合員の単組が多いため、その組合員化と併せてシニアの会員か準会員化する二重加入、会費は減額対応、②組合員規模100名以上の組織で退職者組織のないところの立ち上げ、③60歳以上の組合員の方に直接個人会員として愛媛シニアクラブへの働きかけなどを再確認しました。

報告、監査報告、25年度活動方針案（郡山りょう必勝決議を含む）と予算案をいづれも賛成多数で決め、役員の出も満場の拍手で決定。さらに今期で退任される前田副代表幹事と竹内会計監査の12・22年の長きにわたる献身的な活動に対して森永代表幹事から感謝状と記念品の贈呈がなされました。

日々の活動は \ SNSで発信中/

こちらからアクセス

た。常連の皆さんは現役の参加者とは50歳以上年上、さらに腕前にも差があったこともあり、対戦にも指し手の指導にも力が入ったようで、例年にも増して一日を楽しまれた様子でした。